

# 世界い産富士山



ぼくの家からは、天気がいいと富士山が見えます。静岡のどこかへ出かけても、いろいろな所で富士山を見ることができて、富士山はとても身近な山です。今年、富士山と朝霧高原に小学校の野外学習に行くので、富士山の事について調べました。富士山の切手を見ていたら、とてもたくさん富士山がかかれたものがある事に気がつきました。静岡県と山梨県には、富士山世界い産の構成資産がいろいろとあります。

「信こうと芸術の源泉」として、世界文化い産となった富士山について、まとめました。

## 目次

1. 世界い産富士山
2. 世界い産への登録
3. 構成資産
4. 富士五湖
5. 富士山信こう
6. かぶか北丈い
7. 富がく三十六景
8. 富がく三十六景
9. 歌川広重
10. 東海道五十三次
11. 富士山の登場する物語
12. 大すきな富士山

# 世界遺産への登録



富士山は2013年に世界文化遺産に登録されました。富士山とその周辺の歴史ある建物、貴重な自然もあわせて登録されました。

「富士山信二」は、平安時代には日本中に広まっていた。

江戸時代には富士講が広まりました。

富士山に登山できない人のために、

「富士塚」がつくられ、富士塚登山も大流行しました。



「芸術」は、江戸時代の絵師「かつしか北さい」、「安藤(歌川)広重」らがうき世絵に描き広まりました。北さいの絵は海外にわたり、ゴッホやモネなど外国の画家たちにもえいぎょうを与えました。



かつしか北さい画「富岳三十六景」

# 構成資産



## 〔白糸の滝〕

静岡県富士宮市にあります。富士山の雪どけ水が、大小数百の滝になって流れ落ちていきます。きぬ糸をたらしたような、細い水の流れからこの名前がつけました。

## (三保松原)



静岡県静岡市の三保半島に広がる松林です。富士山から遠くはなれた三保松原は一度は「富士山を見る場所で富士山ではない」と、イコモスから以外のかん告をうけました。しかし富士山と一体の三保松原の風景をめぐる日本人のものの考え方をうたえて登録されました。

歌川広重の「六十余州名所図絵」のなかにも「駿河 三保のまつ原」としてえがかれています。

# 富士五湖

富士山はさまざまな時代のよう岩が積み重なっています。くずれおれた火山火により岩が流れもともちあった大きな湖が分たん地、やがて美しい富士五湖ができました。どの湖も富士山の地下水が湖底から湧き出していると考えられています。富士五湖には、山中湖のほかは流れでる川はありません。富士講信者たちも、富士山の登はいととも、「五湖めぐり」といって湖の水で身を清めてまわることもしました。さらに「白糸の滝」や「おし野ハ海」とともにじゃん礼の対象となりました。



西湖



精進湖



本木西湖

本木湖は水深122mで一番深く、結氷するとはありません

この3つの湖の湖面のちよう高は同じ900mです。



山中湖

富士五湖の中で最も大きく、ちよう高も一番高いです。



河口湖

ちよう高が一番ちいさいです。

# 富士山 信 ころ

(浅間神社)



全国にある1300以上の浅間神社の  
総本宮は、静岡県富士宮市にある  
「富士山本宮浅間大社」です。

紀元前27年、火山火をくり返す富士山をしずめる  
ために、垂仁天皇が神様をまつたのが始まりとさ  
れています。1604年に徳川家康に  
よって、本殿 拝殿を始めとする三十餘  
棟の大造宮が行われました。



本殿は「浅間造」と呼ばれ、国の重要文化財です。



主祭神は日本神話(古事記や日本書紀)  
に登場する水の女神  
「木花之佐久夜毘売命」  
をまつています。

絹本着色「富士まんだら図」  
にも、富士登山の人々と共に  
浅間大社が描かれて  
います。



# かつしか北さい



かつしか北さいは江戸時代のうき世絵し  
で、風景画を得意としました。  
北さいの代表的な作品に「富かく三十六景」  
があります。全部で46枚出版されました。

北さいは「富かく百景」という富士山を画題にした102  
枚のスケッチをまとめた絵本も出版しています。

## （富かく三十六景 神奈川沖浪裏）



数ある北さいの作品の中でも一番  
有名な作品です。あれくるう波の中に  
「押送舟」がかかれ、画面中央にどしどし  
とたたずむ富士山の様子がえがかれています。

海外の切手の構図にもつかわれています。



フランス  
美術切手



トルコ  
観光切手



「日本チリ修好100  
周年記念」  
チリのオリム山と  
太平洋

# 富士三十六景

〔山下白雨(さんかはくう)〕

「白雨」はにわか雨のことです。富士山頂は晴れているけれど、ふもとには暗雲が立ちこめいな光が走っています。富士山ろくの変りやすい天気の様相が表されています。「黒富士」とも呼ばれています。「かい風快晴(赤富士)」よりも、頂上か急にえがかれているのも特ちょうです。



1970年の「日本万国博覧会(大阪万博)」の時には、「山下白雨」の構図を使った切手がハニガリーから発行されました。



# 富がく三十六景

〈がい風快晴〉

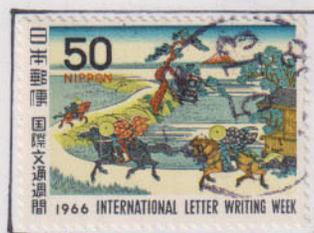
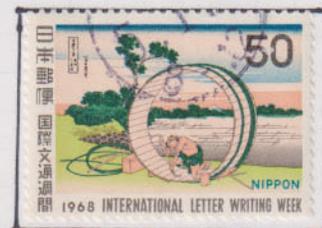


「赤富士」とも呼ばれている作品です。富士山が朝焼けで赤くそまる「赤富士」の風景をえがいたものです。「がい風」は南風のことです。



← 国際地しんサミット記念  
「赤富士と地しん波開き」

その他にも富がく三十六景の切手は数多く出されています。いろいろな富士山がえがかれています。



← この二つは  
同じ作品  
です



# 歌川 広重



江戸時代のうき世絵しで風景画を得意としました。広重の風景画には、気候と季節感がもり込まれています。

代表作に「東海道五十三次」や「名所江戸百景」などがあります。

## 〔名所江戸百景〕

何気ない江戸の風景を、ズームアップを取り入れたり多様な構成法を用いてベストセラーとなりました。あざやかな色づかいにも気を配り、のうたんのガラヂョニなどを入れています。

とく特のあい色表現は「ヒロシゲブルー」といわれ、日本の画家はもちろん、ゴッホやモネなどの外国の芸術家にもえいきょうを与えました。



これらの切手には、どれも富士山がえがかれています。

# 東海道五十三次

広重の連作うき世絵でもっとも有名なのが「東海道五十三次」シリーズです。このシリーズでは季節や天候、時間帯などにもこだわりました。



〔川崎〕六郷渡舟  
東京都と神奈川県の間を川で多  
ま川を船で渡す風景です。富士山が  
遠くに見えるのは、品川方面から見たからです。



〔原〕朝之富士  
さわやかな朝の風景です。この図  
で富士山の頂上を画面のわくから  
つき出させています。



〔由井〕さつたれい  
さつたれいはさ赤峠と呼ばれて  
います。ここから東側に富士山を  
のぞくながめは絶景です。



〔舞坂〕今切真景  
まい坂と荒井は渡し船で繋がれ  
「今切の渡し」とおられました。西側  
からまい坂方面を見えています。

# 富士山の登場する物語



## 〔曾我物語〕

がま倉時代のそが兄弟のあたうちの様子を書いた軍記物であら室町時代を通じて語りつがれ、広く知られるようになりました。



その後人形じょうりや能、歌ふきの演目となりました。「そが物語図巻」には源頼朝が

富士山のすそ野で巻がりをする様子がえがかれています。

## 〔竹取物語〕



おじいさんが光る竹を見つけておくと、女の子がでてきました。その子は「かぐやひめ」とよばれ、とても美しく成長しました。大きくなり月に帰るかぐやひめにみかどは不老不死の薬をもらいました。その薬を日本一高い山の山頂でもやしました。このことからその山は「不死山(富士山)」とよばれるようになったといわれます。

# 大きな富士山



ぼくは富士山を、毎日のように見えています。季節ごとに変わる富士山は、いつ見てもとてもきれいです。天気の良い日の夕方、赤くやまる富士山もとてもきれいです。

今回富士山のことをいろいろ調べて、富士山は昔から人々をひきつける山だったということがわかりました。

いつもは富士山の山すそ位しか行きませんが、もう少ししたら、まず宝永山から登ってみたいですね。

## 参考文けん

◦決定版！富士山まるごと大百科

監修/佐野亮 学研



◦一度は見たい浮世絵名作100選

監修/白倉敬彦 宝島社

◦歌川広重 東海道五十三次 保永堂版

監修/町田市立国際版画美術館 二玄社

◦富士山本宮浅間大社 由緒

富士山本宮浅間大社 発行